

2025 年度理工学部 FD 活動報告

2026 年 4 月 15 日

理工学部 FD 委員 大石泰章

理工学部では、FD 活動方針・活動計画にもとづき、2025 年度、下記の FD 活動を行った。

(1) FD 報告会の開催

2026 年 3 月 3 日(火) 13:30~14:30 オンライン

「理工学部情報基盤整備について」

講演者：栞原寛明 准教授（電子情報工学科）

参加者：教員 23 名

情報システム委員会を中心に進めてきた理工学部の情報基盤整備について、その内容と運用の説明があった。また、それを踏まえて運用や活用の方法について議論を行った。今回導入する情報サービスが、いずれも学部内の議論や、情報共有、広報において有用であることを共有するとともに、その活用方法について認識を深めることができ、意義のある企画であった。

(2) FD 講演会の開催

2025 年 9 月 24 日(水) 14:15~15:15 S 棟 1 階会議室 1 およびオンライン

「キサラ学長に聞く『人間の尊厳のために』の根源とその実践」

講演者：ロバート・キサラ 学長

参加者：教員 31 名，職員 4 名

本学のモットーである「人間の尊厳のために」の持つ歴史的背景や、これをどのように実践すべきかについてキサラ学長に話していただいた。講演後は多くの質問、コメントがあり、本学における理工学部の貢献、AI との関わりを通して人間の尊厳が大切になっていること、学生への教育の方法などについて議論が交わされた。個々の構成員がいかに関「人間の尊厳のために」を実践していくかを考えるために、有意義な企画になったと考える。なお、本企画は FD・SD 合同企画として行った。

(3) 教育業績表彰

データサイエンス学科の学科科目「数理技術プログラミング」の担当者である小市俊悟教授、河野浩之教授、塩濱敬之教授を表彰した。この講義はデータサイエンス学科およびデータサイエンス副専攻の必修科目であり、統計、最適化、機械学習に関して、Python を使って既存のパッケージやライブラリを活用するプログラミング法を指導する。データサ

イエンス学科およびデータサイエンス副専攻の講義を補完する点で、大きな効果を上げていることが評価された。

(4) 「学生による授業評価」の自己点検と評価

教授会において学部長から 2024 年度の授業評価を対象とする自己点検・評価が示され、議論を行った。本学では、学生による授業評価を踏まえて、担当教員が自己点検・評価を行っているが、その際報告を求められている項目の解釈が教員によって異なること、また、理工学部独自の設問について学生による評価結果が担当教員以外に公開されておらず、組織としての自己点検・評価がやりにくいことが指摘された。

(5) 教員相互の授業参観の促進

共通教育科目「情報倫理」において授業参観があった。この科目は情報センターが提供する全学の必修科目であり、理工学部の多くの教員が担当している。e-learning と対面授業を組み合わせ、グループでの発表や学生間の議論を含む先進的な授業であるが、特に初めて担当する教員には敷居が高い。授業の実施を円滑ならしめるために、また、担当教員間で授業内容を均質化するために、授業参観は有効であった。

以上